平成 23 年 12 月 26 日　月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC

今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ②～ New

（調査週）　平成 23 年　　第 50 週　　12 月 12 日（月）～12 月 18 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北　部	中　部	南　部
1	感染性胃腸炎	5.63	↑	↑	↑	↑
2	水痘	1.74	↑	↑	↑	→～↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.31	→	→	→～↓	↑↑
4	インフルエンザ	1.11	↑↑	↑↑	↑↑	→
5	RS ウイルス感染症	0.94	↑	→～↑	↑↑	→

県北部地区概況　報告数は242例で、前週報告の197例から増加。上位５疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③インフルエンザ、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（40例）は、ほぼ倍増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（19例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（97例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（28例）も、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（17例）も、ほぼ横ばい。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳は、奈良市HC管内；32例、郡山HC管内；8例で、前週に引き続いて奈良市HC管内（2.91）のみ定点当たりの報告数の流行開始値を上回っていた。また、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が各々1例ずつ計2例報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。　（村井　記）

県北部外来状況：外来患者数は 12 月も中旬であるのに多くない。インフルエンザは当院では未だ皆無であるが、奈良市西部では流行が始まっている。溶連菌咽頭炎が 5、6 才以上成人まで流行している。症状は咽頭痛のみから発熱、猩紅熱までさまざまである。ノロウイルスの感染性胃腸炎も例年に比し非常に少ない状態が続いている。RS ウイルス感染症は幼児でポツポツみられる。　（矢追　記）

県中部地区概況　報告数は 49 週の 152 例から 50 週は 182 例と増加した。上位の５疾患（49 週→50 週）は、①感染性胃腸炎（74 例→77 例）、②水痘（15 例→22 例）、③RS ウイルス感染症（３例→15 例）④インフルエンザ（１例→21 例）⑤A 群溶連菌咽頭炎（23 例→13 例）の順であった。感染性胃腸炎は増加し１位、水痘が増加し２位に、RS ウイルス感染症が増加し３位に、インフルエンザが著増し４位に、A 群溶連菌咽頭炎は減少し５位となった。手足口病は減少し６位となった。インフルエンザが流行し始めてきた。眼科定点からは葛城 HC より流行性角結膜炎 1 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。　（徳田　記）

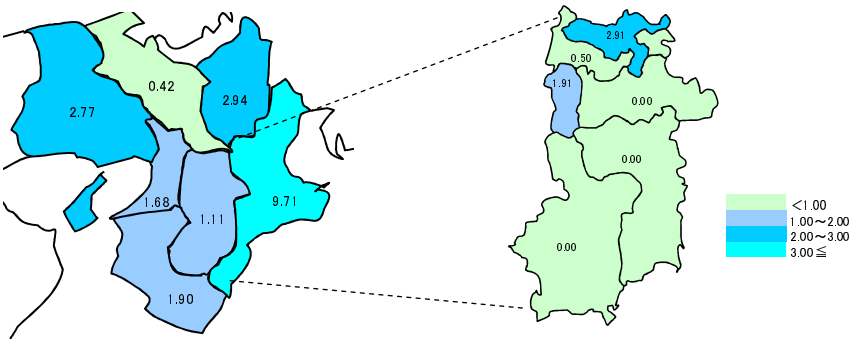
県中部外来状況：外来数は日によって多いときもある。予防接種もまだ多い。インフルエンザはなく、疑いで検査をする例も少ない。マイコプラズマ肺炎が年長児で２～３例ある。RS も何例があった。感染性腸炎が流行し始めた様子で、嘔吐を主とした例が増加。ノロウイルス様と思われるA群溶連菌感染症、伝染性紅斑が僅かずつ続いている。　（岡本　記）

県南部地区概況　報告数（第 49 週→第 50 週）は 29 例→51 例と増加。報告のあった疾患は①感染性胃腸炎（20 例→23 例）、②A 群溶連菌咽頭炎（１例→14 例）、③水痘（７例→11 例）、④RS ウイルス感染症（０例→１例）、④突発性発疹（０例→１例）、④マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（１例→１例）であった。　（柳生　記）

県南部外来状況：一般外来数は横這いであまり多くはない。感染性胃腸炎でノロが疑われるものがやや増加してきた。ロタは認めず。相変わらずキャンピロバクター腸炎も見られる。溶連菌咽頭炎が増加している。咽頭痛が無かったり、咽頭所見の乏しいものもある。水痘も多い。流行性耳下腺炎は認めず。インフルエンザを疑うものはまだない。　（山本　記）

【気になる話題　～インフルエンザ②～】

インフルエンザの報告数が増加しています。近隣府県の状況では、三重県の定点あたり報告数が 9.71（全国値 1.98、近畿 1.82）と著しく高く、次いで滋賀県が 2.94、兵庫県が 2.77 です。奈良県は 1.11（前週：0.36）と流行開始の指標である 1.00 を超え、地域別では奈良市保健所管内で 2.91（前週：1.64）、葛城保健所管内で 1.91（前週：0）となっています。



図．第 50 週のインフルエンザ定点あたり報告数（左：近畿各府県、右：奈良県詳細）

（感染症情報センター　記）